

瀬戸内市立 瀬戸内市民病院だより

新春号

2025年 No.133

TAKE FREE

編集・発行
瀬戸内市民病院 広報委員会

さんさん広場



特集

【放射線科】

80列マルチスライスCT導入 P5

CONTENTS

P1 新年のごあいさつ

P3 令和7年 新春書初め展

P5 【放射線科】

80列マルチスライスCT導入

P6 シリーズ 歴史人物の診断書

～戦国時代編～ 宇喜多秀家

P7 亀のストラップをいただきました

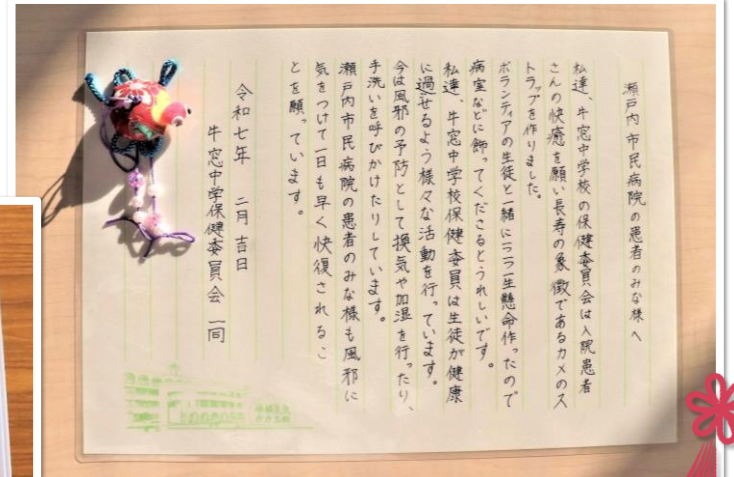
院内研究発表会を開催しました

編集委員のちょっと一服

～オリーブの木の下で～

亀のストラップをいただきました

今年も牛窓中学校の生徒さんから
たくさんの亀のストラップを
いただきました。



一つ一つに思いを込めて手作りの世界にただ一つの
ストラップと心温まるお手紙をいただきありがとうございました。
皆さんの想いは、しっかりと伝わっています。

院内研究発表会を開催しました

～ 日々の業務を通じて見つけた課題やテーマへの取り組みや研究成果を発表 ～



2月15日に院内研究発表会を開催しました。

特別講演-「ほめ育」で医療現場が変わる(講師:松島真己)-を挟んで看護局、診療局、医療技術局から計8題の発表があり、優秀賞には「当院における、摂食嚥下障害・食支援介入例の実態報告」(リハビリテーション科/安藤ST)が選ばれました。

横山院長は、「日々業務に追われているところ、

ご苦労様でした。研究して学んだ事を業務に活かし、患者さん・職員・地域にとってより良い取り組みを行い、信頼される病院であるよう活動していきましょう。」と総評を述べました。

編集委員のちょっと一服 ～オリーブの木の下で～

大晦日に紅白歌合戦を見ましたが、若い歌手がほとんど分からず、「年忘れ日本の歌」に切り替えました。昭和の名曲は歌詞がずっと浮かび、一緒に口ずさむうちに若い頃の自分を思い出しました。字幕で2番の歌詞を知ることができたのも新鮮でした。

最近旅立った西田敏行さんや八代亜紀さんのメドレーが流れ、どの曲も心に染み込みました。改めて昭和の歌の良さを懐かしみながら楽しんだ年の瀬でした。(M・H)

宇喜多秀家



宇喜多直家



秀家の父 宇喜多直家
宇喜多直家は享禄2年（1529年）砥石城（邑久郡豊原庄）に生まれ、父と城を脱出した後、現在の長船町福岡や邑久町笠加を転々とする間に父が病死するなど不遇の幼少期から身を立てて裸一貫から備前・美作一帯を治めた戦国大名です。直家の死について書かれた文献には次のようにありました。

『或説に、直家の腫物は、尻はすといふものにて、膿血出づることおびたし。』（備前軍記より）

歴史人物の診断書

～戦国時代編～

瀬戸内市にゆかりのある
戦国武将を
シリーズで紹介しします

直家の死因は「尻はす」と呼ばれる腫れ物で、膿の混じった血が出る病気のようです。それ以上のことは分かりませんが尻を文字通りに肛門ととるのであれば大腸癌が疑われます。また、『腫物』という表現は主に『皮膚に出来た病変』を指す場合に使われますので『皮膚癌』の一種ではないかと推測できます。直家は天正9年（1581年）に毛利氏との戦いの中、岡山城にて53歳で亡くなりました。



宇喜多秀家

豊臣政権の五大老 宇喜多秀家

直家の没後、その跡を継承したのは、息子の秀家（当時は八郎）です。信長が本能寺の変で横死すると、羽柴（豊臣）秀吉は、前田利家の娘豪姫を養女とし、秀家に嫁がせました。五大老に出世した岡山城主・宇喜多秀家は、関ヶ原の戦いに敗北し、島津家・前田家の助命嘆願によって死罪を免れ、1606年（慶長11年）息子2人と共に八丈島に流罪となりました。1616年、徳川家康が死去すると、秀家は幕府から許されましたが、その後も八丈島から出ることをせず、1655年11月、八丈島で、83歳で亡くなりました。これは関ヶ原の戦いに参戦した大名のなかで一番の長寿だといえます。

豪姫
前田利家と芳春院（おまつ）の娘で2歳の時、羽柴秀吉の養女となり溺愛されました。



瀬戸内市は、歴史学者の磯田道史氏をチーフアドバイザーとする『戦国宇喜多家を顕彰する会』（『戦国宇喜多家の大河ドラマ誘致を応援する自治体の会』）に参画して宇喜多家の顕彰活動や関連イベント、NHK大河ドラマ化を目指す活動を応援しています。



宇喜多秀家の妻となり、八丈島へ流罪となった秀家と子供たちに仕送りを続けました。自然環境の厳しい八丈島の暮らしは、苦難の連続でしたが、そんな秀家を何とか助けたいと願った豪姫は、前田家を通じて幕府の許可を得ると、毎年のように米や金子、衣類、雑貨、医薬品などを仕送りしたのです。前田家は豪姫の思いを継承し、仕送りは明治維新まで続いたのです。



病院事業管理者
竹内 龍三

「新年乙巳の年にあたって」
—新しい方法での医療提供にチャレンジ—

明けましておめでとうございます。皆さんどんな抱負を抱いて新年を迎えられたでしょうか？
今年の干支は乙巳（きのとみ）です。「乙」は未だ発展途上の状態を表し、「巳」は草木が大きくなった時の意味があります。そのため乙巳の年は、努力を重ねて物事を安定させていく年とされています。また、新しいことにチャレ

ンジする意気込みを持つ年とも言われています。
60年前の乙巳年はアジアで初めての東京オリンピックが開催された翌年で、日本の経済発展に拍車をかけた年でもありました。しかしながら、このまま少子高齢化問題による人口減少に手立てを講じなければ60年前とは反対に日本の病院経営は尻すばみの状態になります。事実、過疎地の診療所の閉鎖数は年々増加しており、病院も合併縮小が進んでいます。

そのような世情の中にあって、市内唯一の一般病院としての瀬戸内市民病院の役割が更に大きくなっています。当院を取り巻く環境は厳しいものがありますが、私たちは乙巳年の如く新しい方法で医療の提供にチャレンジします。

定評をいただいている訪問看護に加え、新年度から訪問診療、訪問リハビリ、さらに産婦人科をはじめとしたオンライン診療、小児科日曜日診療、難聴外来診療への取り組みを展開します。これら新診療計画は現状の人員による診療体制の中で始めていく予定であり、それには院内での枠組みを超えたスタッフの協調・協力体制が不可欠となっています。

また、院外に目を向けると、瀬戸内市内の医療を担う上で市内の医療・福祉に関わる多職種との連携もますます重



院長
横山 伸二

要となってきます。
これらのことを念頭にスタッフ一同、皆様と共に瀬戸内市の医療・福祉を支えて参りますので今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

「ハード面、ソフト面の充実に力を注ぐ」

瀬戸内市民病院では、2025年の新しい年がどのようなものになるか期待と同時に不安も感じております。

古代中国の暦制度で60年周期で回帰する干支（えと）がありますが、今年の干支は乙巳（きのとみ）で、順番としては42番目に位置します。この年は、努力を重ねて物事を安定させるという意味を持つとされています。では、瀬戸内市民病院が積極的に取り組むべき安定への努力とは何でしょうか。当院は市の事業の一部でありながら、基本的には独立採算可能な健全な経営を目指しています。しかし、現状としては、今年も困難な問題に直面しています。全国の公立病院の約2/3は赤字経営と

なっているのが現状です。日本の皆保険医療制度は2年に1回の診療報酬の改定により順次変更されていますが、物価高騰や消費税の上昇といった絶えず変化する要素に対して、医療収入は年度ごとに上限設定されており、医療材料や人件費を含む必要な経費の増加に対応できない制度となっています。とはいえ、国民が安定した生活を維持するためには、社会福祉や医療が不可欠であり、特に平等で安定した医療の提供は生活の根幹を成すものです。その意味で、公立病院の役割は大きく、職員一同、これを責務と考えています。今後も瀬戸内市民病院としては、病院の機能向上を目指すべく、ハード面、ソフト面の充実に力を注ぐ予定です。ハード面では、今年1月にCT装置を16列から80列にバージョンアップしました。（※詳しくは5ページ）

これにより検査時間が短縮され、患者さんの負担が軽減されるとともに、より鮮明な画像が得られるため、画像診断のさらなる向上が期待されます。また、ソフト面の充実として岡山大学病院とタイアップして4月よりオンライン診療、日曜日の小児科外来診療も開始する予定です。さらに限定的ではありますが、難聴外来の開設も予定しています。

団塊の世代が後期高齢者に移行し、医療、介護を必要とする人口が年々増



明けておめでとうございます。
令和6年の6月に診療報酬の改定がありました。報道ではプラス改定と言

「在宅医療の充実を 図る年にしたい」



病院事業部長
上井 勉

加する中で、全国的に介護事業者の倒産、閉鎖が増加しています。必要度が
増している中で、この不足問題の解消に公的病院として貢献するためには、訪問看護に加えて訪問診療、訪問リハビリテーションにも一層力を入れる
予定です。一方、昨年2月より導入した鏡視下（腹腔鏡下）手術も、順調に症例数が増加、安定した結果が得られています。さらに拡大できるものと確
信しています。

われたいですが、新型コロナウイルス感染症対策に多額の費用を投入した
ことで、国は報酬の要件を厳しくしており、実質的にはマイナスの雰囲気
が漂っています。これは、様々な部分で
本院の経営に影響を与えています。

また、年末からインフルエンザ等の
感染症が増加しています。そうした
中、職員一同が日々病院機能を守るべ
く対応しています。

この1年は、腹腔鏡手術の機器を新
たに導入し、当院での手術実績も増加
しています。経験豊富な医師が実施し
ています。腹腔鏡手術は身体への負担
も少ないため、早期回復が見込ま
す。さらに令和7年の1月にはCT機
器を更新し、短時間の検査で高精細な
画像診断を実施できるようになりま
した。

そして、今年の4月からは、岡山大
学病院との連携をより深めつつ、様々
な取り組みを始めるための準備を進
めています。詳細が決まり次第、ご紹
介したいと考えています。

今年は、国の動向も見ながら、現在開
設している訪問看護ステーションのよ
うな在宅医療の充実を図る年にしたい
と考えています。「市民に安らぎと幸せ
を届ける病院を目指します」という当
院の理念を今後も持続できるよう、さ
らなる努力を重ねてまいりますので、
よろしく願います。

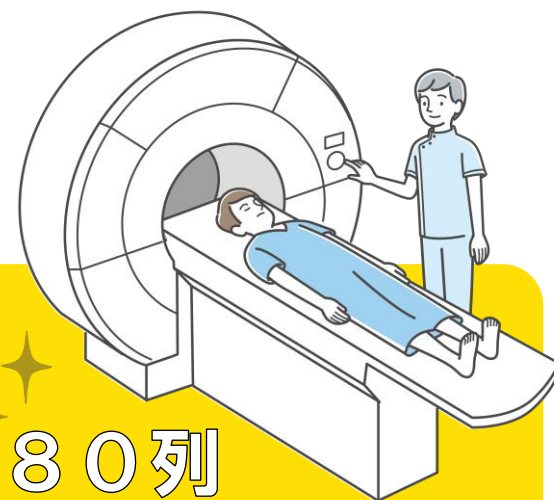
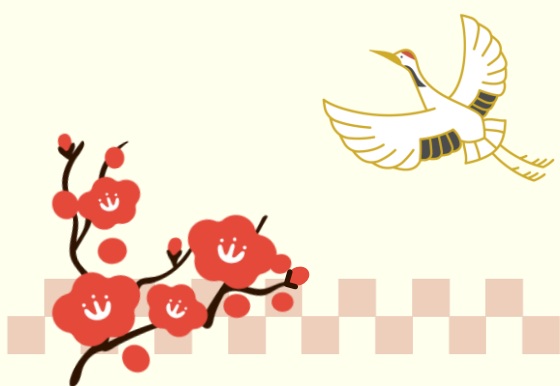
今年が皆様にとって、しなやかに前
進し成長する1年となりますよう願っ
ております。

「**予防対策をきちんと行い、
栄養と睡眠をしっかりと**」

明けておめでとうございます。
昨年は、暑い日がいつまでも続き、涼
しくなるのが遅く、秋は短く、突然寒い
冬が到来しました。まさに「地球温暖
化」を肌で感じる令和6年後半でした。
過ごしやすい春や秋が短くなって、
暑い夏（暑いといっても酷暑です）が長
くなると熱中症や脱水症、尿路感染症
などになりやすく、寒い冬が長くなる
と感冒などの呼吸器感染症にかかりや
すい期間が長くなります。

年末年始にかけて、日本中でインフ
ルエンザが猛威をふるっています。瀬
戸内市民病院でも毎日多くの方が体調
不良で受診されました。

インフルエンザやコロナウイルスは
人間を介して感染します。予防法とし
てはワクチン接種が最も効果的と言わ



80列 マルチスライス CT導入

CT装置の更新により、短時間で、
より精密で、より低い被ばく線量
での検査が可能となりました。

3

少ないX線量で より質の高い画像が得られる

被ばくによるリスクを大幅に減少させ、安心
して精密な検査を受けることができます。

4

CT画像をより早く 作成できるので患者さんの 待ち時間が短縮

旧CT装置では撮像後に、ポリウム画像（CT
の元画像の束）が出来るのに5～10分程度
かかりましたが、新CT装置だと約1～2分で
済むので診療放射線技師がポリウム画像を
使って作成したCT画像をより早く医師に提
供することが可能となりました。

次々に検査が出来るようになったので、患
者さんの待ち時間も短縮になるというわけ
です。

新CT装置の特性を生かして有効に活用することで、多くの
患者さんの病気を早期に発見し、地域の皆様のお役に立ち
たいと思います。また同時に、地域の開業医の先生方から

瀬戸内市民病院ではCT装置を更新し、令和7年1月20日
より稼働を開始しました。

当院で4代目となるキャノンメディカル社製の新CT装置は
X線を検知する検出器が従来（16列）の5倍となる80列あ
り、患者さんの負担を軽減し、同時に診断の精度と効率性の向
上を実現しました。

1

短時間で撮影が可能

旧CT装置を用いた胸部から骨盤部までの撮影は、平均して約20
～25秒の息を止める時間が必要でした。この長い時間が特に高齢
の方や呼吸困難の患者様にとっては大変困難でした。

しかし、この新たなCT装置の導入により、**撮影時間が大幅に短縮
され、約4～6秒で撮影することが可能となりました。**

2

呼吸による画像のブレを大幅に削減

旧CT装置では、長い息止め時間により再度呼吸を始めた際に、画
像にブレが生じる可能性がありました。

しかし、新CT装置の導入によりその時間が短縮されたことで、
呼吸による画像のブレを大幅に減らすことが可能となりました。

新たに導入されたCT装置の外観



ドーナツ形の穴（ガントリー）が70cmから80cmに広くなり足を曲げた
状態でも、患者さんとガントリーが接触することがなくなったことや寝台
が左右に動くようになったことで、肘関節や肩関節などのCT画像がより
きれいに撮れるようになりました。また、**金属のある部分（股関節術後や
歯の金属）の画像がきれいになりました。**

のCT検査依頼にも対応し、本当に良いCT装置が入ったと
喜んでいただけたらいいと考えています。

放射線科長 診療放射線技師 赤木耕平

特別賞

特別賞（病院事業管理者賞・事業部長賞・院長賞・看護局長賞・事務局長賞）に選ばれた作品は、見る者の気持ちを高め、決意を新たにさせる魅力があります。



瀬戸内市民病院では令和7年1月10日（金）から24日（金）までの約2週間、病院職員による新春書初め展を開催しました。

コロナ禍によって様々な職員交流イベントが中止となったためコミュニケーションの活性化やストレスからの回復、チームワークの向上を目的として始まったこの企画も今年で3回目となります。

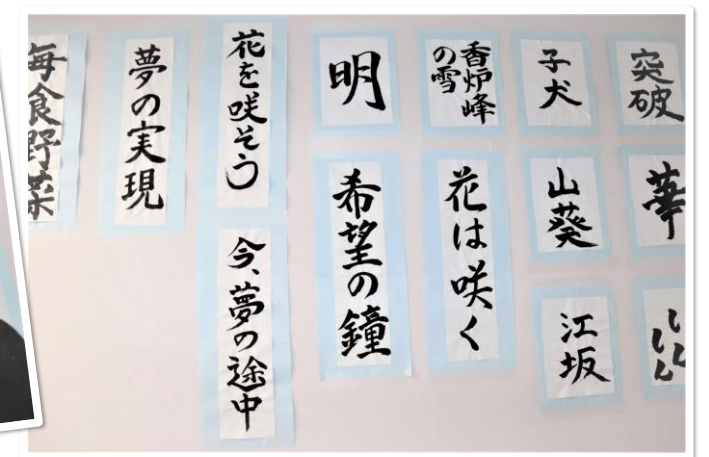


「書」を通して個性が光る！

お正月に家族と一緒に書き初めを行った職員や、院内に設けられた書初め会場で同僚と楽しく行った職員など35名（62作品）の応募があり、大いに賑わいました。

集められた作品は、今年の目標や抱負、座右の銘などが自分の言葉でのびのびと自由に書かれていて文字にも独特の味があり、どれもそれぞれの個性が光る力作でした。

令和7年 新春書初め展



レクリエーション委員会では、今後もこのようなイベントを企画し、職員間の交流を深めていきたいと思っています。

職員が職場で楽しく活動できると、毎日生き生きと仕事ができるようになります。

その結果、職員間のコミュニケーションがさらに活発化し、良好な風通しが保たれます。これが地域の皆様への笑顔の提供にもつながると考えています。

レクリエーション委員
会長 赤木耕平